

領土標柱また消える

竹島 辻代議士らが調査

状をうつたえたい。

【米子発】内閣委員辻代議士、外務省川上事務官、第八管区海上保安本部古森公安課長らは問題の竹島を調査のため境海上保安部巡視船「ながら」(二七〇)に乗って十七日午前零時ごろ島取県境港を出港、同正午ごろ竹島に三百メートルの所まで接近したが、シケのため上陸できず、約一時間にわたって同島を海上から視察したのち、十八日午前五時すぎ境港に帰港した。辻代議士は「竹島問題も李ライン問題も完全に日本の敗北だ」と次のように語った。

今回の現地視察は国会の代表としてであるが、竹島には人影はなかった。境海上保安部へく「が去る六日三度目に立てた日本領土標柱は抜き去られ、東

島の頂上と中腹に板またはブリキで造られたと見られる韓国の旗が立てられていた。また西島には赤と白の測量用ポールが二本立てられたままになっており、韓国側は接近大がかりな調査を行ったものと思われる。外交折衝をいくらやっても現地ではそう簡単には片付かない。結局力なくしては外交折衝もためたということになる。現在の問題点は竹島の価値よりも、日本が世界に自国領土であると宣言した竹島を韓国が実力をもって奪ったことだ。今後、海上防衛の重点を西日本とくに日本海岸におき、侵略を実力をもって防ぎ、日本を守らねばならない。早速国会に報告し日本国民に現